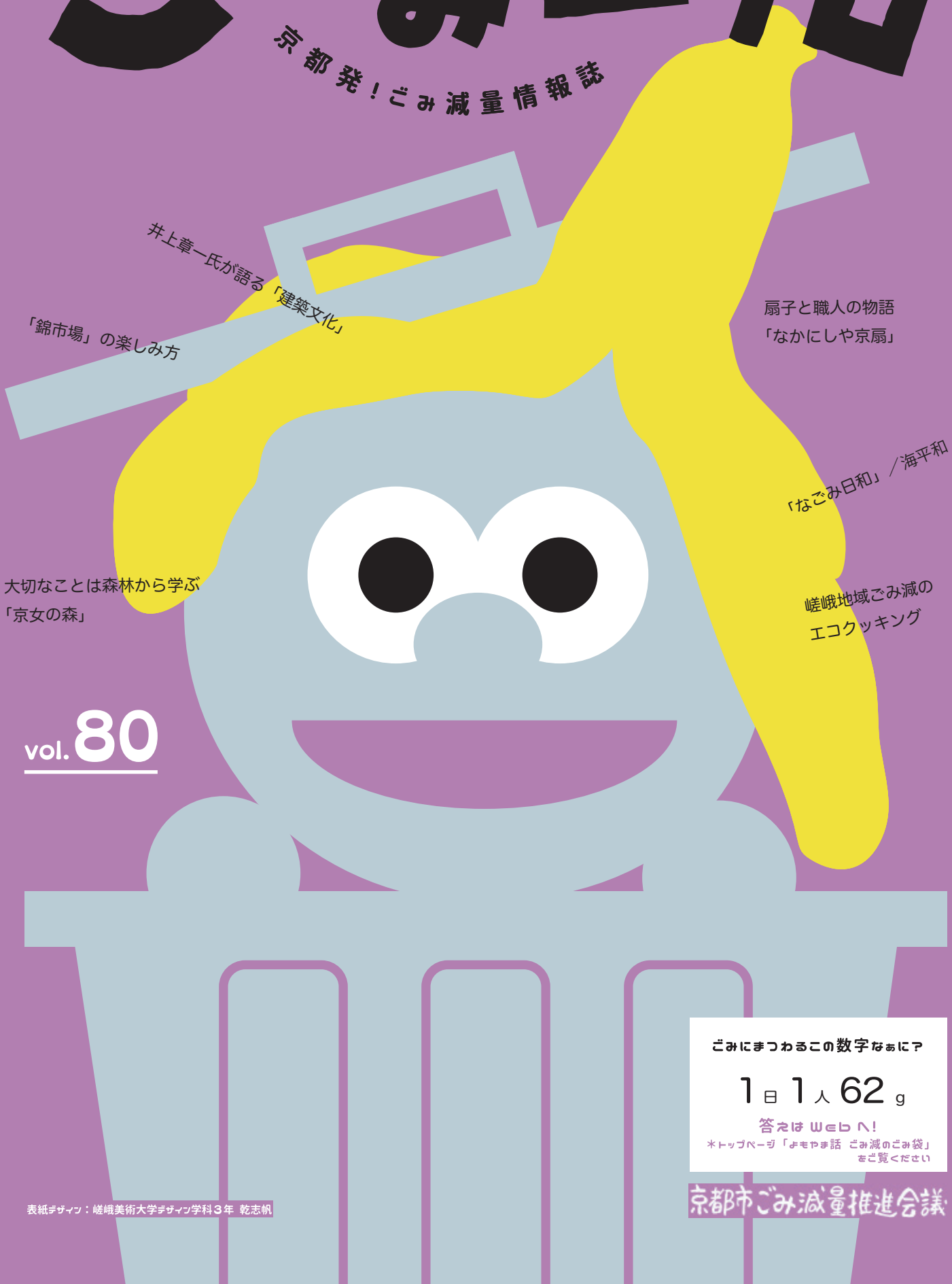
ごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌



井上章一氏が語る「建築文化」

「錦市場」の楽しみ方

扇子と職人の物語
「なかにしや京扇」

「なごみ日和」／海平和

大切なことは森林から学ぶ
「京女の森」

嵯峨地域ごみ減の
エコクッキング

vol.80

ごみにまつわるこの数字なぁに？

1日 1人 62g

答えは Web へ！
＊トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」
をご覧ください

京都市ごみ減量推進会議

表紙デザイン：嵯峨美術大学デザイン学科３年 乾志帆

特集

私たちが残してきたもの 捨ててきたもの

～ 井上章一氏　講演会 ～

2019年2月9日（土）、同志社大学今出川キャンパスにある同志社礼拝堂で、当会議主催の市民向け講座が開催されました。講師は、国際日本文化研究センター教授で、ベストセラー『京都ぎらい』の著者としても知られる井上章一氏。建築史家で、風俗史や日本文化にも精通する氏が、日本とヨーロッパそれぞれの建築や街並みとの向き合い方、文化的差異を示し、「建設ごみ」などにも触れ、話を展開されました。氏の博識ぶりが伺える数々のエピソードに、時おり、京都人のいけずな物言いを交えた軽妙な語り口で、会場となった礼拝堂は笑いに包まれました。

「ごみ」にまつわる素朴な疑問でスタート！

冒頭、井上氏はごみ出しについての率直な思いを口にされました。「皆さん、ごみ出しには神経を使っておられると思います。我が家も分別に努めてきました。でも、心の片隅に“戸惑い”と“疑い”があります。あれ、ほんまに役に立ってるのやろうか」。そう言って先ず聴衆の笑いを誘いました。そして、建築の勉強をしてきた者として、「建設ごみ」が気になっていると。解体工事では重機で一気に壊して、そのままままとめてトラックでごみ処理施設へ運んでいきます。「あのごみの分別はどうなっているのか。それを思えば、各家庭でいちいちごみの分別をしていることにどれ程の意味があるのでしょう」。ユーモアを含みつつ皮肉たっぷりの、氏らしいイントロダクションです。

築 50 年を越えた建物はごみ !?

ある大学のエピソードから話は始まります。経営不振の大学がシンクタンクに相談したところ、出された財政再建策は「キャンパスを売却して移転する」というものでした。60数年前にアメリカ人建築家が手がけた美しい学舎が並ぶキャンパスは、その大学の誇りです。しかし、築60余年の学舎は資産価値“ゼロ”と判定されたのです。「建物の減価償却は終わっており、残しておいても維持費がかかるだけ。売却して移転先に近代的な新しい学舎を建てるほうが学生が集まる」と。

今、日本の建築はビルであれ住宅であれ、30～40年程度で解体、つまり建設ごみにしています。建物の減価償却は、最大でも50年程度。昨今「ごみ屋敷」が問題になっていますが、財産的にいえば、築50年を越えた建物はすべてごみということになります。建物は新しいほうが値打ちがあり、便利で快適なのが良い。歴史的価値や景観は二の次、三の次。そんな社会に私たちは生きています。

講演する井上章一氏

建築や都市景観を大切にする欧州の人々

自身を「イタリアかぶれ」だという井上氏。学生時代に訪れたフィレンツェで感動したことがあるといいます。それはフィレンツェ市役所の庁舎が、14世紀初頭の建物だったこと。「日本で言えば鎌倉時代。築700年の建物を今なお使い続けているのは凄いことです」。

ポーランドの首都ワルシャワの街は、第二次世界大戦で大変な被害を受けました。しかし、終戦後、市民が協力して、戦前の絵葉書や古い写真、図面などを集め、それを頼りに“壁のヒビ一本に至るまで”忠実に再現し、街を甦らせました。

また、イタリアのアマトリーチェでは、2016年の地震で多くの建物が倒壊しました。石やレンガを積んだ建物は崩れやすく、日本なら耐震補強や鉄筋コンクリートでの建替えを考えるでしょう。しかし、彼らは瓦礫になった石やレンガを地震前と同じ様に積み上げ、安全性よりも街の再生に情熱を傾けます。

多くの町家を“建設ごみ”にした京都人

話は第二次世界大戦のことになります。日本が初めて空襲を受けたのは、昭和17（1942）年４月のこと。その後、終戦まで３年４ヶ月戦い続けたことになります。その間に、日本は瓦礫だらけになりました。一方、イタリアはローマが空襲を受けた翌日に休戦を決め、降伏に動き出します。数々の遺跡が破壊されることを防いだのでしょう。

京都は空襲が少なく、結果的に街並みは温存されました。しかし、それを壊したのは京都の市民です。高度成長期に建物を壊してビルに建替え、建てては壊しを繰り返し、多くの町家を建設ごみにしたのです。

「このことを私は重く考えたいと思います。建築文化は戦争をやめさせる抑止力にもなり得ます。しかし、日本には守るべき建築文化がない。この延長上に、先ほどのシンクタンクの判断があるのです。切ないなと思うわけです」。

建築をごみにしなかった都市への敬意

第二次世界大戦の爆撃で瓦礫の山になったドレスデン。街の中心にあった聖母教会は焼損し倒壊しました。住民は瓦礫を回収し、粉々になった石に番号をつけて保存しました。東西ドイツ統一後、その石と新しい石をつなぎ合わせ復元作業を行い、2005年に完成しました。「建築は一度ごみになりましたが、ドレスデンの人々はごみのまま放っておかなかった。『街並みを、建築を、ごみにしたくない』という彼らの熱意に頭が下がります」と感極まって言葉を詰まらせる場面も。建築を守るために莫大な国家予算を投入するヨーロッパの国々。日本なら「他に優先すべきことがある」と怒られるでしょう。「日本で同じことができるとは思わないが、私は彼らに心から敬意の念を抱きます」。

そして最後に「ごみの減量は大事なことですが、これだけ大量の建設ごみを出している現状で、少々の努力にどんな意味があるんだろう、という思いをぶつけて、私の話をおしまいにします」と結びました。

重要文化財の礼拝堂で行われた講演の様子

“建築文化”を培うことがごみ減量のカギ

続いて、質問コーナーです。来聴された皆さんから質問を募集し、井上氏にご回答いただきました。その中で、「建設ごみの分別は」というご自身の疑問に対して、当会議の会長※である、高月紘（京都大学名誉教授）から回答がありました。「以前はブルドーザーなどで一気に解体し、ごみはまとめて廃棄していたが、現在は法改正で、木、紙、鉄、廃プラスチックや瓦礫など、可能な限り分別した上で処理されています」とのこと。それを受けて氏は、「分別も大事だと思いますが、建築を大切にする文化が育てば、建設ごみは自ずと少なくなるし、地球環境にもやさしい街になるのではないかと思います」と締めくくりました。

来聴された方からは、「欧州の人々の建物を大切にする心に感動した」、「先生の建築に対する愛を感じた」、「京都の町家のこともちゃんと考えていきたい」といった感想が寄せられました。

※平成31年４月１日より顧問就任

講師プロフィール：井上 章一（いのうえ しょういち）氏

国際日本文化研究センター教授。1955年京都府生まれ。京都大学工学部建築学科卒、同大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。専門分野は風俗史、建築史、意匠論など。日本文化や、美人論、関西文化論など、広い分野にわたる発言で知られる。

同志社礼拝堂について

今回会場となったのは、重要文化財の同志社礼拝堂。来聴された皆さんに歴史的建造物の価値について考えていただきたいと、荘厳な雰囲気と温もりを兼ね備えた、築133年の当礼拝堂での開催となりました。

同志社大学今出川キャンパスにある当礼拝堂は、1886年６月竣工。プロテスタントのレンガ造チャペルとしては日本に現存する最古の建物（D.C.グリーンによる設計）。正面中央に円形のバラ窓、左右にアーチ窓を設け、その前に屋根と尖りアーチの入口を持っており、ゴシック建築の特徴が出ています。1963年７月、重要文化財に指定されています。

藤原幸子（平成31年２月９日取材）

特集2

伝統を軸に新対策で観光客を受け入れ。

～環境に配慮する錦市場～

宇津克美理事長

京の台所・錦市場。400年の歴史を持つ商店街に今、新たな波が押し寄せている。観光スポットとしてインバウンドが急増。過去とはうって変わって、今までにない光景が浮かび上がっている。その変化に伝統の街はどう向きあっているのか。京都商店連盟の会長も務める京都錦市場商店街振興組合 宇津克美理事長を訪ねた。

地下水の恵みが錦市場を支えてきた

京都のど真ん中に江戸時代の浮世絵師・伊藤若冲（じゃくちゅう）の精髄（せいずい）に出会える場所がある。奇想の画家とも呼ばれた若冲。近年、一躍脚光を浴び、展覧会となれば、多くの人が集まる。作品そのものではないが、若冲を彩りとして取り入れた一角。そこは、「錦市場」。言わずと知れた京の台所であり、日本を代表する食の市場である。

錦市場の起源は、1615年（元和元年）と言われる。豊臣秀吉による京都改造で本格的に賑わうようになった魚市が、江戸幕府から魚問屋の称号が許され、鑑札を得て独占的な商いをする店（たな）ができ、市場形態がスタートした。そこへ1770年（明和７年）ごろ野菜を売る店が加わり、様々な変遷があり、明治･大正を経て1963年（昭和38年）「京都錦市場商店街振興組合」設立を果たし、さらに発展していく。

発展を支えたのは、豊富な地下水の存在があるといわれる。平安時代から利用され、鮮度を保つ役割も果たした地下水は現在でも、川のように地下を流れ、商店街の各店舗によって共同利用されている。

鮮度も味もほんまもん。豊かな品々が食欲を誘う

錦市場は、全長約390m、道路幅3.3m（一部５m強）からなり、鮮魚・精肉・野菜など生鮮食料品が26店舗、塩干・蒲鉾・湯葉・惣菜など加工食料品が57店舗、衣料・日用雑貨など、食料品以外が24店舗、飲食業が21店舗と合計128店舗（2019年３月１日現在）で構成されている。

錦市場の西の入り口に立つと、南北角に建てられた若冲の絵の一部を配したバナーが迎えてくれる。見上げれば、テントにも若冲作品が…。1716（正徳６）年に錦市場の青物問屋「枡屋」に生を受け、40歳を迎えて家督を弟に譲り、画業に専念した若冲。時を越えて生誕地によみがえり、市場を見守っている。

東に向かって、アーケードの下をそぞろ歩けば、外国人観光客が行き交い、興味津々にお店を覗きこむ姿が目に入る。鮮魚店の店頭にはタコ、塩干店では、ホタテ貝、惣菜店ではエビの天ぷらと色々な食べものが串刺しにされ売られ、「美味しそう～」と手を伸ばしたくなる。他にもたこ焼き、揚げ物、卵焼きなどなど、すぐに食べたくなる食べものが、次々と登場する。街角にたたずみ立ったまま食べている観光客はいたが、食べ歩く観光客はなく、店内に設けられたカウンターなどで食べている光景があちこちで見受けられた。

錦市場入口

どうぞ、お食べやすけれど、食べ歩きはご遠慮を

錦市場では、一時期食べ歩きが増え、串やトレーのポイ捨てなどの問題が浮上した。京都ならではの伝統ある味や食材の提供を誇る錦市場。食べ歩きも串などのごみの散乱もマイナスイメージになるだけ。錦市場振興組合の対応は早かった。すぐさま抑制のための対策を打ち出す。

錦市場商店街はもてなしの精神を大切に対策を打ち立てた。観光客には錦を心置きなく楽しんでいただきたいと、上から目線で「ダメ」と示すのではなく、遊び心のある将棋の駒に見立てた駒札で「ご遠慮ください」との意思を示した。ピクトグラムの下には、日本語だけでなく、英語、中国語、韓国語で表記した。彩り豊かな物品が所狭しと集まる市場にあって、この札は目に留まる。

さらに分別ごみ箱も設置した。隠すのではなく、「見せること、見えること」を意識し作った。ごみ箱の本体は既製品だが、上には入れ口のあるプラスチック板がのせられている。透明板には、中国を意識した雷文様、日本伝統の麻の葉、光琳波文様が朱色で施され、もてなしの心遣いを感じさせる。

駒札やごみ箱の効果か、確かに路上にごみは見当たらない。

錦市場を歩いて気づいたのは、空きスペースを活用した飲食スペースを設けたお店が多いこと。「イートインコーナーは、食べ歩きを遠慮していただくとともに、錦の味わいを楽しんでもらえる最善策」と、宇津理事長。現段階で24店舗が行っているが、今後も増やしたいとの意向だ。

2019年９月からは新たに「丹後王国」が開店し、その２階にイートインスペースが誕生する。そこでドリンクを購入すれば錦市場で買った食べものを、ゆっくり座って食べることができる。もちろんそこにも分別ごみ箱が設置される。

３つの食べ歩きやポイ捨て対策をご紹介したが、それぞれに効果を発揮し、錦市場にすっかり溶け込んでいる。

「不易流行」の考え方で100年後を見据えて

京都の食文化を提供し、発展してきた錦市場に昨年春、新たな文化拠点が開設された。もともと卸売市場であった錦で卸の醍醐味を体験し、自分で仕入れた食材を、プロの手で調理してもらい、それを味わうという仕組みの店「斗米庵（とべいあん）」。割ぽう「祇園さ＞木」の協力でオープンした。若冲の別号を店名に冠したこの店は、錦が培ってきた食文化への理解を深める存在となろう。

400年の歴史を誇る錦市場の未来への展望を持ち、まとめ役を担う宇津理事長は、「不易流行」という考え方を大切にしている。観光客が押し寄せる時代の中で、錦ならではの「もてなしの心」で対応していく柔らかな姿勢。変わらないものの中に、変わりゆくものを取り入れていく…。100年後の錦市場を見据えた取組に思えた。

斗米庵での料理教室の様子

留学生として京都大学で学ぶ李婷（リーチン）さんの一言

取材に同行した中国からの留学生（京都大学大学院）から感想を聞かせてもらいました。

お店によって捨てられるごみの大きさや種類、量などが違うため予めリサーチした結果に基づいてごみ箱をデザインすると話されていたことが印象的だった。

デザインもあまりごみ箱の存在を感じないような柄で京都らしい工夫がされていると感じた。

森田知都子（平成31年２月18日取材）

Hand in Hand

大切なことは森林が教えてくれていた
～京女の森を通じた環境教育の実践～

三十三間堂を横に見ながら七条通を東へ進み、妙法院と智積院の間にある女坂を登っていくと、自然豊かな山の斜面に京都女子大学のキャンパスが広がっています。今回は、京都女子大学発達教育学部の宮野純次先生に、森林を通じた環境教育についてお話を伺いました。

京都女子大学発達教育学部教授　宮野純次先生

京女の森

京都市左京区大原尾越町に位置する京都女子大学（以下、京女）の森は、戦後、人の手が入らなくなったことにより、自然の状態が続いていました。標高650~800m、広さ約24ヘクタールの森林で、1950年代後半の燃料革命以後放置され、自然化が進む旧薪炭林。1990年から、京女の先生や学生が、学外の専門家の協力を得ながら本格的な調査を開始しました。5年間にわたり毎月2回、延べ人数にして280名もの学生が参加しました。野生動物からキノコなどの菌類を含む総合的な調査の結果、京女の森は極めて生物多様性に富む森林であることが分かりました。また、大学に隣接した「京女鳥部の森」は、豊国神社境内の常緑の森とつながり、四季の変化が楽しめます。

京女の森でのフィールドワークの様子

森林には究極のエコシステムがある！

「環境に配慮した生活を実践する人は増えていますが、どんなに頑張っても必ずごみは出てしまいますよね。」と宮野先生。「でも、森林には一切の無駄がない。ごみは出ないんです。例えば、落ち葉は土の中で分解されて、また、豊かな森を作り出す栄養素となる。たわわに実った果実も、全部食べつくす必要もないし、残っても、それは次の子孫繁栄にもなる。このような究極のエコシステムが森林には自然に備わっているんです。」

大切なことは“感じること”と“楽しむこと”

「自然を守ることは大切ですが、まずは、森林の中で感じる“何か”を大事にしてほしい。そして、何か感じたら、そこから考えるんです。」宮野先生は続けます。

京女の森に生息するモリアオガエルとその卵塊

「自然の中に何度も身を置くと、都会の生活の中にある小さな自然を見つけることができます。そして、その自然がとても貴重なものだということが分かるようになるんです。本を読んで分かるのとは違います！環境破壊が世界レベルで起こっている現代、環境教育の重要性が言われていますが、この教育で最も重要なことが、実体験を通じて“感じること”だと思います。」「そして、“楽しむこと”も大事です。学生にはネイチャーゲームを通じて楽しみながら学んでほしいと思いますが、教えている先生も楽しくないと、その楽しさは伝わりませんからね。」終始にっこりと笑顔でインタビューに答える先生は、きっと先生自身も楽しみながら教えているんだろうな。先生の笑顔を見て私も京女の森に行ってみたくなりました！

草で作ったバッタ、子どもがよろこびそう！

高野拓樹（平成31年３月１日取材）

なごみ日和

KBS 京都 アナウンサー
海平（うみひら）　和（なごみ）

第22回　「天皇盃　第30回全国車いす駅伝競走大会」

福岡Aチームが大会新記録で４年ぶり６回目の優勝。天皇盃を手にしたのは福岡でした。今年から優勝チームに天皇盃が贈られることになった「全国車いす駅伝競走大会」。全国から26チームが今年も京都に集結しました。国立京都国際会館前から西京極陸上競技場までの５区間21.3kmで競う車いす駅伝。普段は個人で戦う陸上競技の選手たちにとって、駅伝はチームで戦う面白さがあると口をそろえます。

当日はあいにくの雨。スタートの号砲と共に懸命にレーサーと呼ばれる競技用車いすを前に進める選手たち。心のたすきをつないだその先に感動のフィニッシュがありました。２年連続２位に終わっていた福岡Aがその悔しさをはらし優勝。３連覇を阻まれた大分Aは２位。そして…

京都Aは４位で競技場内に入ってきたものの、３位の大阪にトラックでどんどん詰め寄り逆転、２年連続の３位と、目標だった表彰台にたちました。３位の表彰台は難しいかもしれないと話していた坂野監督はこれが５人の力が合わさっての強さ、駅伝の面白さと逆転を喜んでいました。京都Bの杉本選手は初出場。55歳にしての挑戦を「楽しかった」と振り返り、「これから何か新しい事を始めようと考えている人に、まずは始めてみてほしい」と呼びかけました。

これまでたくさんの思いで30年の歴史を紡いできた車いす駅伝。新しい時代もまた思いがつながり、たくさんの感動を生み出していくに違いありません。トップ選手に憧れて新たなスターも生まれます。これからも応援していきたいですし、来年の東京オリンピック・パラリンピックが楽しみです。

海平　和：京都市出身、2010 年 KBS 京都入社。テレビ「京スポ」「news フェイス」、ラジオ「栢木寛照熱血説法こころのラジオ」などに出演中。

人と物と。織りなす「もっぺん」物語　第９回

なかにしや京扇

扇発祥の地といわれる五条通界隈には、昔から多くの扇工が集まり、一帯を「骨屋町」と呼んだという。今回訪れたのは、その一角に暖簾を掲げる京扇子専門店「なかにしや京扇」。三代目の中西潤吉さんが製作から販売まで一貫して行い、修理やオーダーメイドも請けている。

中西潤吉さん

扇子と一口に言っても、涼をとる持ち扇だけでなく、儀式扇、芸事扇、飾り扇など多くの種類があり、扇骨の数や扇形、素材も様々である。修理依頼は京扇子に限らない。「唐扇や洋扇、蔵に眠っていたという軍扇・鉄扇が持ち込まれたこともある」という。

現在、扇子の修理をする店は数えるほどしかない。理由を問うと「何人もの職人を使って修理するぐらいなら新しいのを買うて、となるわけや」と中西さん。その言葉の通り、京扇子の業界は分業制だ。竹を切るところから仕上げまで大別すると８工程、更に細分すれば50以上の工程に分業化され、それぞれの専門職人が手作業で一本一本作ってきたのだ。負けず嫌いだった中西さんは、子どもの頃から職人たちのもとへ通いつめ、手元を見て技をぬすみ、扇骨の加工以外、ほぼすべての作業を一人でこなせるよう腕を磨いた。だからこそ出せる「修理」の看板なのだ。

芯紙の隙間へ中骨を差し込む「中附け」の工程

修理をすることは「先人や他の職人との出会い」だと中西さんは言う。「修理を通して、会うたこともない職人の物作りが見られるんやからワクワクする」と。自身の父親が50年ほど前に手がけた品との出合いもあった。「お客さんはたまたま持って来られたんですけど、『おぉ！』という感じやったなあ」。その時の感動をたいへん嬉しそうに話してくれた。

▶なかにしや京扇　京都市東山区正面大和大路西入る茶屋町509　☎075-561-2988

藤原幸子（平成31年２月２日取材）

女性ならではの智恵と得意を活かして

～嵯峨地域ごみ減量推進会議の楽しくておいしいエコクッキング～

右京区役所はいつもたくさんの人でにぎわっています。区役所1階には右京エコまちステーション（以下、エコまち）があり、そこは区民のごみの何でも相談所。今回はエコまちと協力しながらエコ活動を元気に推進する「嵯峨地域ごみ減量推進会議（以下、嵯峨地域ごみ減）」に毎年開催しているエコクッキングを中心にインタビューしました。

私たちの料理はほとんどごみを出しません！

今回、取材に対応してくれたのは嵯峨地域ごみ減会長の原みよさんと浅田冨美子さん、そしてエコまちスタッフの宮崎修一さんです。嵯峨地域ごみ減はこれまで、「防災」×エコクッキング、「食育」×エコクッキングなど、その年の背景をテーマとしたエコクッキング教室を開催しています。防災がテーマの場合、袋を使って一つの鍋でたくさんの種類の料理を作ったり、食育がテーマの場合、ブロッコリーの芯やにんじんの皮など、普段捨ててしまいがちなものを使ったり！「これが結構おいしいんですよ」と原会長。「作った料理は反省会も含めてみんなでおいしくいただいています。」と浅田さん。参加した会員さんから周りの人たちに伝えられ少しずつ広がっています。とにかく、二人が笑顔で楽しそうに話す姿が印象的で、楽しいクッキングの様子が伺えます！新年度のテーマを聞くと「まだ決まっていないけど、楽しいテーマにしたいですね。」と原会長と浅田さんは笑顔で答えました。

エコクッキング教室の様子（H29年テーマ「防災」）

たった10名だけのメンバー、でもこれが一致団結のポイント！

嵯峨地域ごみ減は10名のメンバーで活動しています。「メンバーを増やしていきたいというのはあるけれど、10名という少人数だから何でも決めるのも早いし、すぐに一致団結できるんです。」と原会長は力を込めました。「それよりも課題は高齢化かな。だって70歳が若い部類に入りますからね」と笑いながら話すお二人！その姿がなんともお若い！！

エコ活動を通じて私たちの右京をエコのまちにしたい

メンバーは少ないけど、私たちの活動をたくさんの方に知っていただきたい。そんな思いから毎月第4土曜日に使用済てんぷら油の回収を行っています。2018年10月からは、回収場所を人の往来が多い「グルメシティ嵯峨店」の前に移し、これまで活動を知らなかった人たちに知ってもらう機会が広がり回収量も増えています。廃油を出しに来た人に必ずお伝えするのが「3キリ※」。啓発ちらしを配り「3キリ」の重要性を伝えています。このような啓発活動を続けて、少しでもエコの輪が右京区に広がればうれしいです。

右京エコまち作業長の須藤さん、嵯峨地域ごみ減会長の原さん、浅田さん、エコまちスタッフの宮崎さん

嵯峨地域ごみ減のてんぷら油回収の様子

※3キリ　食べキリ…食べ残しをしない
水キリ…ごみを出す前に水を切る
使いキリ…食材を残さず使い切る

高野拓樹（平成31年2月12日取材）

ごみ日和 80 京都市ごみ減量推進会議・会報誌 2019. 夏
編集・発行／京都市ごみ減量推進会議　普及啓発部会（事務局 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 ごみ減量課）
〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター活動支援室内 TEL:075-647-3444/FAX:075-641-2971 E-mail: gomigen@kyoto-gomigen.jp URL: http://kyoto-gomigen.jp/

ごみ減　検索 で検索できます
植物油インキで印刷しています。
この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！